

## 5S から始める中小企業の組織活性化術

### 第2回 「5S活動」とは何か



#### 「5S活動」の歴史

「5S活動」とは、「**整理・整頓・清掃・清潔・躰**（しつけ）」という5つの要素を組み合わせた、組織活性化の「技術」のことです。

その成立過程は、一般的には、日本社会の工業化が進む中で、製造業の世界で、生産性の向上や労働安全環境の確立のために3S活動（整理・整頓・清潔）というスローガンのものから生まれています。呼び名は、3つの要素をローマ字で表したときに、全て先頭に「S」の文字がつくことからそう呼ばれました。昭和40年代から始まる高度経済成長下で多くの工場や建設現場に、こうしたポスターや垂れ幕を眼にしたものでした。

そうした工業化の時代の中で、世の中の変化が進み、社会や個人のニーズや企業のスタンスも変わり「清潔であること」「良くしつけられた人々」という新たなテーマが浮かび上がり、従来の「3S活動」に、「清潔」と「躰（しつけ）」という要素が加わり、「5S活動」という、製造系だけではなく、**全ての業種に当てはまる組織活性化技術**が生まれました。

#### 組織の中の「共通言語」

「5S活動」が組織活性化させるもっとも大きな理由は、「5S活動」が組織の中の「**共通言語**」であるということです。

組織の中には、さまざまな職位や職種があります。部長、課長、主任などという立場や、事務系、現場系、販売系、営業系などという環境の違いです。また、世代や性別の違い、最近では国籍の違いまであるでしょ

うか。つまり、組織は意識しておかないと、それぞれの考え方や言い分や理解度に大きな差があるのです。

組織にとって一番重要な利益ですら、立場や職種によって随分と違います。ある人にとっては、売上げが全てであり、ある人は販売することや物を作ることが全てであり、時には集金の金額や支払いの金額でしか利益を考えられないなどというバラバラな状態です。本来「全員で」取り組まなければならないのですが、実態はなかなか「**全社一丸**」になれません。

こうしたバラバラの状態をどのようにしてひとつにまとめ上げるかは、経営者や経営幹部の「仕事」です。そのときに「5S活動」は「共通言語」として組織の中で展開できる唯一のものです。

#### 「意識改革」のツール

実際に「5S活動」を行って、組織を活性化させた組織（企業）は数多くあります。

ある組織では、パートのベテラン女性たちがやる気を出し、あっという間に組織の雰囲気を変えてしまったことがあります。別の企業では、20代の若い世代が活動を推進し、数カ月で組織の仕組みを整えてしまいました。「5S活動」は、いわば翻訳の必要のない「共通言語」なので、いったん動き出すと実にスムーズに活動の成果が目に見えます。

この「**目に見える活動**」という特質は、中小企業にとっては重要なことです。組織の「意識改革」は、言葉や文字やイメージで出来るものではありません。具体的な変化を目に見える形で見せることによって初めて成功します。その意味からすると「**5S活動**」は、「**意識改革**」にとって強力なツールとなります。